

宇治市歴史的風致整理表

重点区域検討地区

重点区域検討地区

1. 遊覧と参詣 宇治川河畔の歴史的風致

(1) 宇治川河畔の参詣

みむるとじ
三室戸寺

(3) 宇治川河畔の遊覧

つし かわ りよつかん
宇治川兩岸

2 - 2 . 茶どころ宇治の歴史的風致

(3) お茶に関する文化

まんぷくじ
萬福寺

しよつでん さんぞつ
松殿山莊

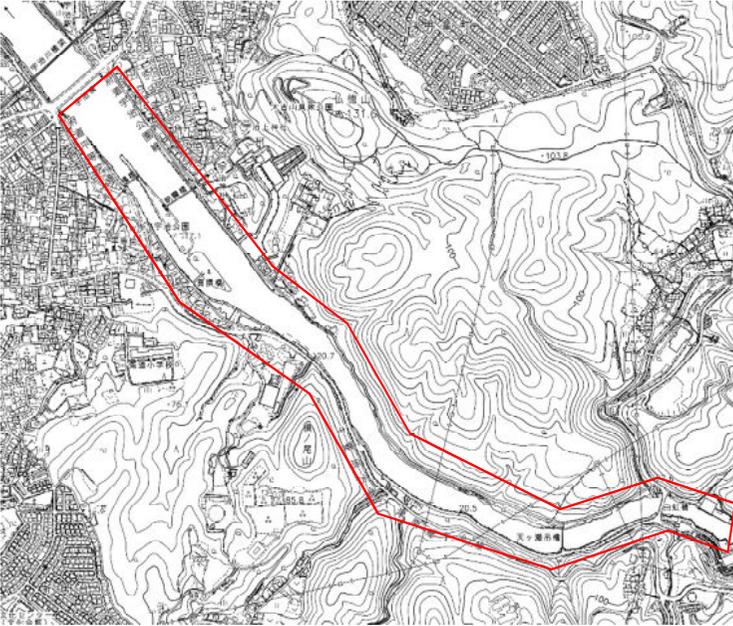
1. 遊覧と参詣 宇治川河畔の歴史的風致

(1) 宇治川河畔の参詣

建 造 物	活 動 内 容	市街地環境（建造物と活動の関係性・一体性）
<p>みむろとし 三室戸寺</p>  <p>三室戸寺本堂</p> <p>【建築年代】 本堂：文化11年（1814）棟札 三重塔：元禄17年（1704）棟札</p> <p>【50年根拠資料】 『都名所図会』安永9年（1780） 西国三十三所観音霊場巡礼の十番札所 本堂：棟札 三重塔：棟札</p> <p>【造り・特徴】 本堂：単層裳階付仏堂、屋根二重、棧瓦葺、入母屋造、軒唐破風付、軒唐破風銅板葺 三重塔：三間三重塔婆、本瓦葺</p>	<p>宇治十帖の古跡と宇治めぐり</p> <p>【50年根拠となる文献+作成年代+記述】 正行尊の『巡礼手中記』（平安時代末期）巡礼が三室戸寺で終わりと記載 『伊紀農松原』（文化6年（1809））「申の刻に立出て三室戸巡礼札所へ詣て、観世音を拝礼し、此村に茶屋も有、相応の宿屋もあれと、」 『日記（本居宣長）』（延享5年（1748））「廿五日、伏見京橋二著畔入、宇治平等院、興聖寺、恵心院、離宮、三室戸、本尊開帳、黄檗山、再入京」</p> <p>【現在の活動内容】 西国三十三所が行われたころから変わらず、巡礼地として巡礼者や参詣者を迎える。 日本遺産「1300年つづく日本の終活の旅～西国三十三所観音巡礼～」の一つとして認定される。</p> <p>【活動のイメージがわかる写真】</p>  <p>参詣客で賑わう三室戸寺</p>	<p>市街地環境（建造物と活動の関係性・一体性）</p> 

1. 遊覧と参詣 宇治川河畔の歴史的風致

(3) 宇治川河畔の遊覧

建造物	活動内容	市街地環境（建造物と活動の関係性・一体性）
<p>うじ がわりのよがん 宇治川兩岸</p>  <p>宇治川上流から</p> <p>【50年根拠資料】 『閑窓筆記』（文政7年・1824年）では、瀬田石山付近から平等院まで河中を歩き、大岩や岩穴を見物したという記録がある。 『雲錦隨筆』（文久2年・1862年）では、京撰の騷人墨客が宇治川の奇岩・奇石を見物に来たという記録がある。 『宇治川兩岸一覽』（文久3年・1863年）では、宇治川上流についての記載がある。 【造り・特徴】 山間を抜ける宇治川沿いの風景は、四季の移り変わりが明瞭で山紫水明の場所として古くから知られ、表情豊かな自然美の景観が見られる。またそこに棲む生物も多様で、魚についてはコイ目やナマズ目等に加え琵琶湖水系固有種がみられ、また野鳥についてはアオサギやカワウ、オオバン、ムクドリ等の他、天ヶ瀬ダム付近がヤマセミの撮影スポットとして知られている。</p>	<p>活動の名前</p> <p>【50年根拠となる文献 + 作成年代 + 記述】 江戸時代以降、宇治川上流部に人々が遊覧に訪れるさまが文献や絵図に描かれる。 明治44年（1911年）石山宇治通船株式会社、南郷・宇治間の通船開始。鹿跳等に寄港地を設ける。 大正14年（1925年）宇治川汽船株式会社、宇治川ライン開始。 昭和25年（1950年）おとぎ電車運行開始。 昭和51年（1974年）東海自然歩道完成。 昭和51年（1976年）宇治川ライン廃止。 昭和59年（1984年）宇治川マラソン開始。 平成3年（1991年）宇治十帖スタンプラリー開始。</p> <p>【現在の活動内容】 現在も東海自然歩道として、多くの散策客があり、遊覧を楽しんでいる。宇治十帖スタンプラリーや宇治川マラソンも継続して実施されており、賑わいを見せている。</p> <p>【活動のイメージがわかる写真】</p> 	<p>市街地環境（建造物と活動の関係性・一体性）</p> 

2 - 2 . 茶どころ宇治の歴史的風致

(3) お茶に関する文化

建 造 物	活 動 内 容	市街地環境（建造物と活動の関係性・一体性）
<p>まんぶくじ 萬福寺</p>  <p>萬福寺</p> <p>【建築年代】 寛文2年（1662）から順次伽藍が整備される。</p> <p>【50年根拠資料】 『萬福寺文書』</p> <p>萬福寺・萬福寺松陰堂の建造物(計23棟)が重要文化財</p> <p>【造り・特徴】 伽藍配置：中国明朝様式 堂内：中国風</p>	<p>お茶をたしなむ文化</p> <p>【50年根拠となる文献 + 作成年代 + 記述】 宝暦4年（1754）俳人田上菊舎が萬福寺を訪れ「山門を いずれば日本ぞ 茶摘うた」と詩っている。</p> <p>【現在の活動内容】 隠元によって中国明の文人に愛された茶葉を急須で煎じて飲む喫茶方法（煎茶法）が伝えられ、萬福寺を中心に煎茶文化が全国に発信され普及していった。 萬福寺境内には全国煎茶道連盟の本部が置かれ、毎年全国煎茶道大会が開かれている。 日本遺産「日本茶800年の歴史散歩」を構成している。</p> <p>【活動のイメージがわかる写真】</p>  <p>萬福寺での全国煎茶道大会</p>	<p>市街地環境（建造物と活動の関係性・一体性）</p>  <p>写真・図面等</p> <p>萬福寺門前に建つ駒蹄影園碑の碑文に「明恵上人の歌 とが山の尾上の茶の木分け植ゑて あとそ生べし駒の蹄影」と刻まれ、顕彰されている。（台石の上に下幅正面80cm 最大幅100cm 高166cm 宇治石）昭和32年（1957）に萬福寺門前に移転された。</p>

2. 茶どころ宇治の歴史的風致

(3) お茶に関する文化

建 造 物	活 動 内 容	市街地環境（建造物と活動の関係性・一体性）
<p data-bbox="161 244 264 256">しょうんさんそう</p> <p data-bbox="161 260 264 288">松殿山荘</p>  <p data-bbox="387 571 461 587">松殿山荘</p> <p data-bbox="147 619 277 643">【建築年代】</p> <p data-bbox="147 667 725 730">1918（大正7年）～十余年の歳月をかけて建築。関白藤原基房の屋敷を囲っていた土塁が残る。</p> <p data-bbox="147 802 329 826">【50年根拠資料】</p> <p data-bbox="136 850 427 874">重要有形文化財指定(12棟)</p> <p data-bbox="147 938 302 962">【造り・特徴】</p> <p data-bbox="136 986 725 1129">茶室を中心とする様々な建築群を整えた茶道場。山荘流の祖・高谷宗範の説く方円思想における象徴的図形である方形と円形を用いた独創的な意匠でまとめており、独自の茶の湯の空間を創出している。</p> <p data-bbox="136 1153 725 1337">『高谷宗範伝』では、高谷相範はこの地を、丘陵の周囲に深い谷があることで自然の城塞となったうえ、四方の景観がとても雄大で由緒が感じられると評し、また、丘陵自体が茶樹の栽培地なため、茶道場を設立するのにこの上ない好適地とも評している。</p>	<p data-bbox="763 252 893 276">活動の名前</p> <p data-bbox="752 300 1196 323">【50年根拠となる文献＋作成年代＋記述】</p> <p data-bbox="741 347 1330 579">書院式の茶道を復興させる目的で建築される。昭和5年1月25日、山荘に於いて茶道講義の第1回開講。昭和5年11月1日から、3日にわたり落成披露の大茶会が催される。『高谷宗範伝』（昭和10年・松殿山荘茶道会刊）より</p> <p data-bbox="752 619 954 643">【現在の活動内容】</p> <p data-bbox="741 730 1084 754">春季、秋季の茶会及び特別公開</p> <p data-bbox="752 850 1097 874">【活動のイメージがわかる写真】</p>	<p data-bbox="1469 212 1973 236">市街地環境（建造物と活動の関係性・一体性）</p> 